平成 27 年度
地域活動費に係る地区市民センター館長提案 実績報告書

事業名	富田一色けんか祭り継承事業	地区名	富洲原

1. 望まれる地域の姿

地域における伝統行事を継承するため、正しく行事を執り行える人材を育成する。

2. 地域の現状

・人口密度が高い
・少子高齢化が進んでいる

3. 課 題

少子高齢化が進み、伝統行事を行う担い手が少なくなっており、故郷を遠く離れた人にも伝統行事に参加し、正しく執り行えるよう継承する必要がある。

4. 実施内容

・資料作成 ・・・ 資料（冊子）を作成し、地元に配布するとともに、富田一色町以外に居住する方にも郵送する。
・看板製作 ・・・ けんか祭りの言われを標記した看板を製作する。

5. 経費

金額単位:円

支出科目(節)	支出金額	内訳
需用費	201,744	資料(冊子)印刷費@197．64×1,000 角2封筒 @2,052×2束(100枚)
委託料	408,240	看板製作費(2基)
役務費	20,020	@140×143件
合 計	630,004	

6. 目標及び実績

指標	目標	実績(見込)
イベント参加者数を多くする。	イベント参加者数 1,000人	1,000人

7. 成果

伝統行事であるけんか祭りに関する①「念仏供養とけんか祭りの由来」の冊子を増刷し、地元に配布するとともに、富田一色町以外に居住する方に郵送して周知すること、②「けんか祭りの由来」を標記した看板を２箇所（公会堂、海浜緑地公園）に設置すること、により伝統行事に対する意識を高め、次世代につなげることができた。

8. 今後の展開

今後も伝統行事を継承していくためには、今回に冊子を郵送していない方の開拓に再度、自治会長等を通じて輪をひろげ、「けんか祭り」の周知拡大を図っていきたい。

平成 27 年度
地域活動費に係る地区市民センター館長提案 実績報告書

事業名	伝統文化を活かしたまちづくり事業	地区名	富田

1. 望まれる地域の姿

国指定重要無形民俗文化財である「鳥出神社の鯨船行事」が、ユネスコの無形文化遺産の候補となったことに伴い、これまで以上に地域の文化財が四日市の宝として保存・継承されていく地域

2. 地域の現状

- 高齢化及び少子化に伴う後継者不足
- 保存・運営のための資金難
- 対外的な情報発信不足

3. 課 題

４艘による鯨船行事が行われている東富田町と古川町は高齢化、少子化による後継者不足により、技術の伝承が難しく行事の維持が難しくなってきている。また、文化財の保存や運営のための資金の確保が困難な状況である。そのため、他地域へ転出した人にも声がけをして、行事を実施している。また、対外的な情報発信不足により、知名度は高いとは言えず、鳥出神社での観客も減少している。地域活性化のためにも、技術の伝承と情報発信に努め、鯨船が世界の宝であるという住民意識の醸成と対外発信に努める必要がある。鯨船以外にも石取り、大鉦、大太鼓等多くの文化財があることからこれらを総合的にコーディネイトしていく必要がある。

4. 実施内容

⑴ふれあいマップ（日本語版）の作成

地区内の史跡、神社・仏閣、文化財、まつり・行事等を解説したカラー写真入りのふれあいマップを作成した。

⑵文化財説明板設置

鯨船 4 か所、石取り 3 か所、大太鼓大鉦 1 か所それぞれの山車蔵にカラー写真付の説明板を設置して観光客にアピールし、文化財の見える化を促進した。

⑶シンポジウムを開催

文化財を生かしたまちづくりについて考え、地元意識の醸成を促進するためシンポジウム（基調講演、パネルディスカッション）を開催し、参加予定人員 80 人のところ 170 人の参加を得られた。

5. 経費（見込みを含む）

金額単位：円

支出科目（節）	支出金額	内　　訳
印刷製本費	345,600	ふれあいマップ1万部
消耗品費	67,964	ふれあいマップ屋外ケース 15 個
委託料	682,052	文化財説明板 8 基
委託料	117,720	ユネスコ無形文化遺産登録推進シンポジウム開催
合　計	1,213,336	

6. 目標及び実績（見込）

指標	目標	実績（見込）
地域活動参加者数	20,000	20,000

7. 成果	8. 今後の展開
成　果 １．ふれあいマップ作成のため、四日市市史はじめ残っている資料にかなり目を通し、地域の祭等伝統行事、史跡、有形無形文化財、寺社仏閣にも非常に詳しくなり、その過程で多くの地域の人と接触行い人間関係が広まった。 ２．文化財説明版作成についても各保存会との度重なる打合せ等により館長としての意気込みが伝わって信用が高まった。 ３．ユネスコ無形文化遺産登録推進シンポジウムについても参加予定定員 80 名のところ 170 名の参加者があり非常に盛り上がった。無形文化財に造詣の深い文化庁 OB を講師に迎えるとともに地域でパネラーをお願いするなどユネスコ登録向けて意識を高めていくことに非常に役立った。 課　題 文化財保存会等が高齢化により機能しなかったため、ほとんど自分で作りこんでから地元に相談をするということで相当なオーバーワークとなってしまった。また、文化財保存会、まつり保存会等後継者が全然育っていないため、まつりや地域資源が喪失していくと思われる。	文化財保存会、まつり保存会等の後継者を育てるため、今後あらゆる機会をとらえて刺激を与え、意識付けを行っていきたい。 平成２８年度はユネスコ登録で観光客が増えるため、とみだふれあいマップの英語版作成と日本語版の増刷、８つの山車の絵葉書の復活、観光推進課の東海道イベントの拠点イベント、ユネスコ登録による観光客対応鯨船 DVD 作成及び観光客の対応者派遣をまつり連絡協議会への委託することなどを考えている。

平成27年度
地域活動に係る地区市民センター館長提案 実績報告書

事業名	来訪者おもてなし及び地域交流事業	地区名	羽津

1. 望まれる地域の姿

地域の埋もれた観光資源を掘り起こしこれを活用して「来訪者をもてなし」することにより、まちのにぎわいを取り戻す。また、この事業により地域住民の交流がより一層活発化する。

2. 地域の現状

羽津地区は他地区から転入してきた住民も多く地区内に存在する名所、旧跡の知識が乏しい。来訪者に対する説明することが困難となっている。また地域住民の交流も少ない。

3. 課 題

他地区からの転入者も多く地区内に存在する名所、旧跡の知識が乏しい。→ まち歩きマップを各戸配布することにより地区内の知識を増やし「来訪者のおもてなし」が可能となるようにする。加えてまち歩きマップを使用したスタンプラリーを行うことで地域住民の交流もより一層活発化させる。

4. 実施内容

①まち歩きマップの印刷

・「まち歩きマップ」を地区内で各戸配布し地区内の情報を共有化し来訪者に対応する。
・「まち歩きマップ」を来訪者へ提供する。

②スタンプラリーの実施

・「まち歩きマップ」を利用したスタンプラリーを行うことにより地区内の名所、旧跡に関する知識を増やし、認識を深めて（学習して）もらい、かつ、地域住民の交流もより一層活発化させる。

5. 経費(見込みを含む)

実施計画予算額 １，４８０，０００ 円

金額単位:円

支出科目(節)	支出金額	内訳
需用費	1,078,920	まち歩きマップの印刷
委託料	308,350	スタンプラリーの実施
合 計	1,387,270	

6. 目標及び実績(見込)

指標	目標	実績
スタンプラリー参加者	200名	204名

7. 成果	8. 今後の展開
地区住民がまち歩きマップを見て地区の概要を認識し、またスタンプラリーを行うことで地区内の名所、旧跡に直接触れ知識を増やすことが出来た。このことにより来訪者へのおもてなし能力が多少ではあるが向上したと思われる。 また、スタンプラリー実施により地域住民の交流の活発化に寄与したと思われる。	まち歩きマップの印刷は行程的に厳しかったがある程度納得できるものが出来た。地区内外の人に十分利用してもらえると思われる。 スタンプラリーについては開催時期が夏季であった為、予想していたよりも参加者の伸びは良くなかったが予定人員以上の参加者があった。 また、開催日当日は大盛況で地域住民の交流活性化には十分役に立ったと思われる。 今後は地元の名所、旧跡の学習に重点を置くイベント等を考えて行きたい。

平成 27 年度
地域活動費に係る地区市民センター館長提案 実績報告書

事業名	地域ふれあい推進事業	地区名	常磐

1. 望まれる地域の姿

少子高齢化が進展するなか、すべての世代が「ふれあい」を通して、仲間意識を醸成し、他人を思いやることができる地域。

2. 地域の現状

常磐地区は都市化が進展して、子どもたちが土に触れる機会が少なくなっている。また、核家族などにより地域意識の希薄化がすすみ、他人への関心が薄れている。

3. 課 題

地域意識の希薄化により地域の活性化が弱まり、地域一丸となって取り組むべき防災対策事業などの推進が困難になりつつある。地域のふれあいを推進することで地域力の復元が急務となっている。

4. 実施内容

管内の農地を利用して、子どもたち（小学生）が農作物を栽培することで情操教育に資する。また、それらを食することで、収穫の喜びを体験することができた。

さらに、常磐地区最大イベントでもある「常磐まつり」において、老人会などの地域団体の協力を得て、子どもたちが栽培した農作物を提供することで、世代交流間を図った。

なお、まつりでのやきいもなどの売上金（32,450 円）を、日赤三重支部を通じて東日本大震災義援金としておくることができた。

5. 経費（見込みを含む）

金額単位：円

支出科目（節）	支出金額	内訳
報償費	120,000	・農地管理 ・栽培管理 ・農業機械による作業など
需用費	262,653	・苗、肥料、まつり資材ほか
使用料	73,008	・やきいも機材使用料ほか
合 計	455,661	

6. 目標及び実績（見込）

指標	目標	実績（見込）
関係児童の満足度	90%	97%（常磐小 95、常磐西 99）
ときわまつりでのｱﾝｹｰﾄ満足度	80%	100%

7. 成果

○学校関係者、地域関係者の評価
○児童への情操教育
　・作物栽培体験、収穫物料理体験など
○地域との交流
○売上金による災害への支援

8. 今後の展開

○子どもたちの情操教育のさらなる推進
・児童と農業とのふれあい
・料理を通した親子のふれあい
○「常磐まつり」のさらなる活性化による地域連帯感の強化
○地域での農作物栽培の普及（地産地消）

地域ふれあい推進事業実績報告

【関係者からの感想・意見】

１．　さつまいも栽培について

・Good-Idea だと思います。「土」にふれる機会が少ない子供たちにとって良い経験になった事と思います。　（連合自治会副会長）

・地域の子ども達と老人会の交流事業ということで、交流を深めることができ、それなりに意義深い事業であった。

・今後も継続した事業をしていくには、地域団体の積極的な関与が不可欠。

（老人会長）

・学校では出来ない貴重な体験を２年生の子どもたち一人ひとりができ、大変有意義な活動であった。（常磐小校長）

・学校では出来ない、広い畑で１人何本も植えたり、たくさん掘ったり、子ども達にとって充実した体験をすることができました。地域の方との関わりもうれしかったようで、虫の名前を教えてもらったことなどをはなしていました。　（常磐小教諭）

・２年生の生活科の学習の一環としても効果的でありました。地域の方とふれあうことができ、こどもにとって教育的でした。　（常磐西小校長）

・広い畑で一人ずつ苗を植えたり、大きな芋を掘ったりすることができ、子どもたちにとって貴重な体験となった。地域の方からの説明を聞いたり、芋ほりを手伝ってもらったりして、地域のかたと温かくふれ合うことができた。　自分たちのために、汗をかいて準備してくださる姿ややさしい言葉がけに感謝の気持ちを持つことができた。　（常磐西小教諭）

・実際本当に大収穫のおいもを見た時、大人の人たちが、ここまで育ててくれたんだという感謝の気持ちを身をもって感じてくれているようでした。子どもたちは、知識・協力・感動・喜び・感謝を得、大人も子供たちの無邪気さと素直な心、明るさから優しい気持ちが生まれました。一つの事業の中でたくさんの人と関わり、あたたかい気持ちになれました。「ふれあい」が人にとって大切なことだと改めて感じました。　（民生委員）

２．やきいも実施について

・Good-Idea でしたが、販売が追いつかなったようです。事前準備で対応可能か？（連合自治会）

・当初予想をはるかに上回る長蛇の列で好評をはくしたのは、何より。（老人会）

・大盛況であったとのことで、とてもよかったと思います。（常磐西小校長）

・たくさんの方が良いにおいに誘われて並んでいました。やきいも大好評でした。（常磐小教諭）

・常磐まつり参加者は４８名、やきいも購入者は２９名でした。大盛況だったのですが、買えなかった子もいて残念がっていました。（常磐西小学校教諭）

３．児童感想文について

・２年生の文としては立派に書けていました。中には、感激するものがありました。（連合自治会長）

・やはり、自分たちが実際に体験したことは、細かい指導なしでも、文章に書けるということを再認識させられた。生き生きとした文章をこどもに書かせるには、今回のような生き生きとした体験が必要である。　（常磐小校長）

・体験活動を文章と絵で表現できたこと、それを地域行事の中で掲示していただいたこと、合わせて有意義な取り組みであったと思います。（常磐西小校長）

・おいもをほったのが、すごく楽しかったようで、大興奮でした。一人ひとりが、いもほりに強い思いがあり、感想ももくもくと書き、いもの形や色もこだわっていました。　（常磐小教諭）

・子どもたちの作品を保護者や地域の方に見ていただく機会となり有意義であった。返していただいた作品を授業参観でも掲示し、保護者にみていただくことができた。　（常磐西小教諭）

① 小学校からの意見

・苗植えから収穫まで準備していただきました。地域の方々の支援や取り組みを子どもたちが、直に感じとることができました。学校と地域が関わっていくような取り組みを続けていけたらと思います。（小学校教諭）

・常磐まつり当日には、観察カードを保護者の方などが子どもと一緒に見ていました。ありがとうございました。（小学校教諭）

② 児童からの感想【常磐小２年生】

・りょうりにしてたべたらとってもおいしかったです。つくったのはおにまんじゅうです。

・さつまいもをほって、できたおいもをおりょうりするのが、すごくたのしかったです。

・おいもをもっとしゅうかくしたいので、じかんをおおきくしてください。

・そだててくれた人たちにこころからかんしゃしています。

・ちいきの人たちにいつもせわをしてくれて、ありがとうございます。

・学校でそだてたさつまいもはおいしかったです。やっぱり自分でうえたり、いもほりをしたりすると、おいしんだなー と思いました。

・来年ももっと大きいいもをとって、おいしいりょうりをつくりたいです。

③ 児童からの感想【常磐西小２年生】

・なえをうえたり、草むしり、さつまいもほりをやらせてくれて、ありがとうございます。これからもいろんなしょくぶつをそだてたいです。

・スートポテト作りをしたときじぶんでとったおいもを食べたんじゃないけどとってもおいしかったです。

・スートポテト作りをしたときじぶんでとったおいもを食べたんじゃないけどとってもおいしかったです。

平成27年度
地域活動にかかる地区市民センター館長提案 実績報告書

事業名	―伝統文化が息づく日永― 東海道魅力アップ事業	地区名	日永地区

1. 望まれる地域の姿

みんなの手で伝統文化が保存・継承される地域社会を目指す

2. 地域の現状

東海道及び内部・八王子線が当地区を南北に縦断、また医療、買い物先も充実し住みやすいところであるが、自治会の加入率は低下しており住民同士の希薄化が懸念されている。

3. 課 題

市指定無形文化財の日永つんつく踊りなどの伝統文化、名所旧跡や身近な郷土資料の保存継承が、担い手不足で後世への引き継ぎが困難となっている。

4. 実施内容

1） 日永地区郷土文化啓発等業務委託
つんつく踊り保存会に委託契約し、新曲を文化祭など地域行事で披露し普及啓発を行った。
2） 日永ふれあいマップ作成業務委託
ポケットサイズのマップ 3,000 部を作成し、資料館での案内や歴史講座の教材として利用した。
3） リーフレット作成業務委託
日永の追分及びつんつく踊り　各 10,000 部　全戸配布
4） 歴史講座の開催
平成28年2月22日　開催　皇学館大学名誉教授（地元講師）　参加者数:70 名

5. 経費（見込みを含む）

金額単位:円

支出科目（節）	支出金額	内訳
委託料	686,340	日永地区郷土文化啓発等業務委託
委託料	496,800	日永ふれあいマップ作成業務委託
委託料	50,000	日永の追分リーフレット作成業務委託
委託料	50,000	日永つんつく踊りリーフレット作成業務委託
委託料	50,000	歴史講座開催業務委託
合 計	1,333,140	

6. 目標及び実績（見込）

指標	目標	実績（見込）
郷土文化啓発回数・参加者	3回・300 人	4回・約 300 人
歴史講座参加者	50 人	70 人

7. 成果

① 「つたえよう日永つんつく踊り」への参加者が自主的に増加し、裾野を広めた。
② 県史跡「日永の追分」の鳥居の建て替えの行事を普及啓発し、地域に伝わる県史跡を保存継承する意識の醸成を図った。
③ 郷土史研究会の役割が、歴史を伝える主体となり、まちづくりの活性化の契機となった。

8. 今後の展開

① 2020 年の「つたえよう日永つんつく踊り 400 年にむけて」が地区民に広がり日永つんつく踊りの総踊りを繰り広げたい。もって、県指定無形文化財を目指す。
② ふれあいマップを利用し、スタンプラリーやふるさと検定を開催しふるさと再発見につなげる取り組みを実施したい。

平成 27 年度
地域活動費に係る地区市民センター館長提案 実績報告書

事業名	きずなつなぐ四郷２０１５	地区名	四郷地区

1. 望まれる地域の姿

すべての住民が個々の状況に応じて、就学・就労・地域活動・市民活動などにより社会参加している。また、住民同士がお互いに顔の見える関係になり、安全に安心して暮らすことができ、生涯住み続けたいと思う地域になる。

2. 地域の現状

四郷:明治時代には製糸業等の近代産業が発展し、市内唯一の風致地区が存在する。
笹川：大規模集団住宅エリアがあり、外国人居住者が多く(14.5%)、多文化共生が課題である。
高花平小林町：高花平は県下初の住宅団地で高齢化が著しい（39.1%)。昨年度小林町と連合締結。

3. 課 題

四郷：古くから地縁によるつながりが強く、特色ある地域資源が存在するが、新転入の地域住民や若い世代には十分に認知されていない。
笹川：ＵＲ等の大規模集合住宅の住民は、近所付き合いがあまりなく、顔の見える関係がつくりにくく、ひきこもりになりやすい状況にある。
高花平小林町:高花平と小林町は昨年度連合を締結したが、合同での活動はほとんど行われなかった。また、生活支援組織「ちょっと手を貸して運動」が昨年 11 月に結成されたが、まだ会員数が少ない。

4. 実施内容

四郷：(1)昔の四郷の地域資源を撮影した古い写真を住民に広く募集するとともに所有していそうな個人宅を訪問して収集し、電子データとして保存。 (2)「四郷散策マップ」を作成のうえ、四郷の名所・旧跡や風景を撮影しながらウォーキングを楽しむ会を実施して、四郷の素晴らしい地域資源を再認識。(3)収集・撮影した写真を厳選してホームページへの掲載及び写真集アルバムの作成、公開。(4)撮影スポットである四郷の名所・旧跡を案内する「案内標示板」の設置 ⇒ 天白川沿いに「四郷郷土資料館」の案内板、四郷風致地区の「夏の広場」に展望案内板を設置。
笹川：(1)小学生からの公募で選ばれた笹川のマスコットキャラクター「ささまる」を活用した地域活性化 ⇒ ①「ささまる」の着ぐるみを複数の地域イベントに登場させる。②「ささまる」専用のホームページを作成。③「ささまる」をイラスト化し複数のポーズを作成して公開するとともにシールを作成。(2)ひきこもり住民の社会参加を促す地域ネットワーク（ささまるネット）づくりに向けた実行委員会を結成し、地域活動に関する意見交換、「地域包括ケアシステム」の勉強会、「ライフサポート三重西」への視察を実施。
高花平小林町：(1)10 月の「防災運動会」に合わせ、高花平と小林町の住民が合同で「土鍋による炊き出し訓練」を実施。(2)生活支援のための実技研修の実施 ⇒ ①ホームセンターで技術を習得した協力会員が講師となり「網戸の張替え」の実技講習会を実施。②地域住民対象に「防災講演会」を実施して防災意識を高め、後日「家具の転倒防止対策」と「火災警報器の取付」の実技講習会を実施。
四郷地区連合：H27.12.6（日）にひきこもり等支援活動で全国的に有名な秋田県藤里町社会福祉協議会の菊池まゆみ会長による講演会「ひきこもりを地域の力に」を四郷地区市民センターで実施。

5. 経費

実施計画予算額　　１,５００，０００円

金額単位:円

支出科目(節)	支出金額	内訳
四郷事業　委託料	499, 997円	「写真でつなごう四郷のきずな」事業
笹川事業　委託料	499, 400円	「ささまる」を活用した地域活性化事業
高花平小林町　委託料	200, 000円	土鍋による炊き出し、生活支援の実技講習
四郷地区連合　委託料	265, 794円	「ひきこもりを地域の力に」講演会
合 計	1, 465, 191円	

6. 目標及び実績

指標	目標	実績
四郷ウォーキング等の参加者数	300人	305人
ささまる登場イベントの参加者数	2,000人	3, 592人
土鍋炊き出し、実技講習参加者数	450人	359人
ひきこもり支援講演会参加者数	100人	67人
合　計	2, 850人	4, 323人

7. 成果

四郷：豊富な地域資源の魅力を住民が共有し、地元に誇りと愛着を持つことによってきずなを深め、次世代にそれを引き継いでいくきっかけづくりができた。

笹川：小学生からの公募で選ばれた笹川のマスコットキャラクター「ささまる」を活用した地域活性化が図られた。さまざまな地域団体の主メンバーにとって地域ネットワーク（ささまるネット）づくりに向けての参考となった

高花平小林町：高花平と小林町の住民同士が顔の見える関係を作り連帯意識を高めることができた。高齢化が著しい地域住民相互による生活支援活動の活性化を図り共助の輪を広げるための一助となった。

四郷地区連合：地域で孤立する人々の社会復帰支援を積極的に展開し成果をあげている藤里町社協の具体的な取組み実例や苦労話をとても興味深く聴くことができ参加者に好評であった。

8. 今後の展開

四郷：電子データ化して保存した写真は約 400 枚にのぼるが、撮影時期や場所等の特定が困難で公開できなかったものがあるため、今後も分類・整理とともに特定作業を継続し、さらなるホームページの更新・充実を図る。

笹川：「ささまるネット」の実行委員会を立ち上げたが、構成メンバーの各団体の立場や考え方が異なるため、今後は地域の実情に合わせて住民主体の活動を発展させて地域全体のネットワークづくりにつなげたい。

高花平小林町：小林町は独自で防災訓練を行ったり、まだ高花平と連携しての取組みが少ないのが現状であるため、今後は当事業を契機に高花平と小林町との共同事業が増えて、さらに住民同士の連帯意識が高まることを期待する。

四郷地区連合：目標の参加者数には及ばなかったが、参加者にとっては大いに参考になったと思われるため、すべての地域住民が社会参加している地域の理想の姿へつなげたい。

平成 27 年度
地域活動費に係る地区市民センター館長提案 実績報告書

事業名	次世代へ～歴史・自然・暮らしをつなぐまち～事業	地区名	内部地区

1. 望まれる地域の姿

歴史または自然などの資産を活用した事業を地区が一丸となって実施し、観光資源としての活用も図りながら、地区の活性化が図られている。

また、地区住民が参画し作成したものが地区内の行事等で普及・定着し他地区に誇れるものとなっている。

2. 地域の現状

市内の内陸部に位置し、将来的に人口は増加傾向にある。高齢化率は市内では低い。

地区内では多くのボランティア団体が発足され地域活動への意識は比較的高い。

3. 課 題

地域活動の中心を担っている地区住民の多くが高齢者であり、また、その担い手不足が課題となっている。地区内で多くのボランティア団体等が発足しているが、それぞれの団体がそれぞれで活動をしており、地区での一体感をさらに高める必要がある。(マップなども各団体で作成、地区で 1 つになったものがない)

特に郷土芸能は、他地区のように誇れるものがないと多くの声がある。

4. 実施内容

○ふるさと探訪マップ(歴史・自然・暮らし)

ワーキンググループによる掲載内容の検討(7 月から 12 月で検討会議を 11 回開催)、印刷完了(1月末)、各種団体等への配布(2 月)、内部地区での全戸配布(3 月上旬)

○内部音頭、郷土の歌の作成

歌詞フレーズの募集(8 月)、歌詞内容や曲調等の検討(11 月上旬に完了)、両曲(歌入り、ｶﾗｵｹ)のスタジオ収録(11 月下旬)、内部音頭の振付の作成(12 月)、内部音頭、郷土の歌の振付習得講座の開催(1 月、2 月、3 月中旬まで)

○お披露目会の開催

3 月 20 日(日)に内部中学校体育館で開催。 参加者 650名

新しくできた「うつべの歌」の歌と振り付けの披露、参加者全員での合唱、振り付け習得

5. 経費

金額単位:円

支出科目(節)	支出金額	内訳
印刷製本費	623, 160	○マップの印刷 版下原稿作成 B2 版 両面カラー印刷 15, 000枚 B5 サイズに折って納品
委託料	500, 000	○内部音頭、内部郷土の歌の作成 作詞・作曲、編曲、完成曲の収録、CD100枚の作成 (45万円×1 式) ○振り付けおよび習得講座 (2. 5万円×2人)
委託料	349, 160	○お披露目会の開催 中学校吹奏楽用楽譜の作成(5万円) 会場設営(音響設備含)、記念品作成 (歌詞入ﾋﾞﾆｰﾙﾌｱｲﾙ)
合 計	1, 472, 320	

6. 目標及び実績

指標	目標	実績（見込）
「マップ」や「うつべの歌」を活用した地域学習等の実施校園	5校園	5校園（平成27年度） ＊学校等における「内部の歌」の放送 5校園（平成28年度）
内部音頭普及講座の実施自治会	19自治会	0自治会（平成27年度） 19自治会（平成28年度）

7. 成果

○「ふるさと探訪マップ」および「内部音頭」、「郷土の歌」の作成およびお披露目コンサートを開催したことにより、各種団体間の情報交換とともに連携が深まり、地域の一体感や活気が出てきた。
○地区住民と学校園との連携も深まった。
○地区内で「歴史・自然・暮らし」をテーマに、１つのマップに集約できた。
○歌詞のフレーズを募集したことや内部地区住民、自らが新しい「うつべの歌」を制作したことにより郷土への愛着が深まった。
○振付習得講座を実施したことにより、新たなダンスサークルの発足につながった。

8. 今後の展開

本年度は、３つの成果品（マップ、音頭、郷土歌）の作成および配布、お披露目までであった。

ハード整備が中心なったため、成果品を活用したソフト事業の実施まで至ることが出来なかった。

来年度以降は、各種団体が実施する事業にこの成果品を利活用していただき、新たな取り組みを進めていく。

うつべ音頭、はばたけ！うつべ（郷土の歌）お披露目コンサート

○日　時　平成 28 年 3 月 20 日（日）　10 時から 12 時まで

○場　所　内部中学校体育館

○参加者　650 名

平成 27 年度
地域活動費に係る地区市民センター館長提案 実績報告書

事業名	塩浜地区ふるさと創生事業	地区名	塩浜地区

1. 望まれる地域の姿

地域住民が「豊かでさわやかな町しおはま」に住んでいることを誇りに思いいきいきと暮らす。

2. 地域の現状

以前は、穏やかな農漁村地区で住民どうしの関わりも深いものがあった。近年は少子高齢化の進展も著しく、それらも希薄になりつつある。

3. 課 題

地区内には各町固有の獅子舞などの郷土芸能や、地区の財産ともいえる「塩浜音頭」の踊りがあるものの残念ながらその認知度は低い。また、歴史的に意義のある名所等が比較的多くあるにもかかわらず、住民にはあまり意識されてないなど、地区内に「ふるさと」を感じる材料はあるものの十分に活用されていない。

4. 実施内容

（1）郷土芸能振興
①川合町・御薗町獅子舞競演
御薗町獅子舞の復活と両町獅子舞の地区行事等での演技披露、学校等での獅子舞体験教室
②塩浜音頭振興
地区内校園への普及のための講習、各町夏まつりや学校・園・福祉施設の運動会や行事、地区行事等での披露（32 人のメンバーが 13 のイベントにのべ 180 回参加）
（2）地域再発見
①まち歩きツアーPART２：文化的価値のある地区内の名所めぐり
第 1 回 10/24 実施　参加者：一般 34 人、塩小 5 年 35 人
第 2 回 1/23 実施　参加者：一般 13 人、塩小 6 年 38 人
②塩浜地区検定：2/19 実施　参加者一般 44 人、塩小 6 年 38 人
③塩浜地区歴史講座：四日市公害の歴史に関する講演会
7/25 実施　参加者：34 人、8/1 実施　参加者：34 人
④写真で見る「しおはま」：昔のしおはまの写真展開催
第 1 回 11/20 参加者：98 人、第 2 回 12/18 参加者：97 人、第 3 回 1/15 参加者：105 人
（3）ふるさと情報発信
①地区ホームページの運用支援として、各団体操作担当者への講習会開催等
第 1 回 1/28 参加者：5 人、第 2 回 2/10 参加者：4 人、第 3 回 3/18 参加者：6 人

5. 経費

金額単位:円

支出科目(節)	支出金額	内訳
委託料	1,450,000	各種団体への事業実施委託
報償費	30,000	歴史講座講師料
需用費	20,000	消耗品費
合 計	1,500,000	

6. 目標及び実績

指標	目標	実績(見込)
地域再発見まち歩きツアー参加者	80 人(一般)	47 人(一般)
写真で見る「しおはま」参加者	300 人	300 人

7. 成果

御薗町の獅子舞復活で地域が盛り上がり、塩浜音頭の普及で、夏まつりの集客が高まるなど、住民主体のまちおこしに非常に有効に作用していると考えられる。

併せて昨年度の地域活動費事業を一部継続させることなどによって、地域住民の塩浜地区への帰属意識が一気に高まることを期待したい。

8. 今後の展開

川合町、御薗町の獅子舞や塩浜音頭の振興については、次年度以降も引き続き取組みが行われることになると思う。例年、数多く開催される地区の事業等に上手く取り入れ、幅広い年代のできるだけ多くに住民に関わっていただけるよう、努めていきたい。また、まち歩きツアーなどについても学校等と連携しながら、継続できるよう工夫していきたい。

平成 27 年度
地域活動費に係る地区市民センター館長提案 実績報告書

事業名	高齢者のふれあい支え合い事業	地区名	小山田－①

1. 望まれる地域の姿

高齢者が増えていく中で、高齢者の在宅生活を支えていくために住民が互いに支え合うことのできる体制や人材が整っている地域とする。

2. 地域の現状

高齢化が進み、高齢化率 33.89%は市内で１番、面積 18.35 ㎢は市内で２番であり、地区内に４本の河川が流れ V 字谷も多く南北の移動に苦労している。バスも本数が少なく移動手段が限られる。

3. 課 題

住民減少と高齢者の世帯が多く、この地域で生活するうえで日常的な困りごとが多くなってきており、多様な生活支援サービスが利用できる地域づくりが必要である。また、高齢者世帯の事故や犯罪を未然に防ぐなど、地域での取り組みも必要である。

4. 実施内容

高齢化が進み、高齢者が増加していくため、地区住民が安心して暮らしていけるよう支え合う仕組みづくりが必要である。当地区においては生活支援サービスが重要な課題であり、視察・研修等を通して、高齢者とボランティアがふれあい・支え合える関係を構築する。そのための外出、交流の機会として、四日市公害と環境未来館等の視察を行うとともに、ボランティアの募集も行う。また、高齢者・ボランティア等及び地区内で啓発及び講演会を行い、地域内での交流を図って住民が互いに支え合うことのできる体制や人材育成を行う。

5. 経費（見込みを含む）

金額単位:円

支出科目（節）	支出金額	内訳
報　償　費	65,000	講演会3回
需　用　費	54,983	輪転謄写機用製版マスター
役　務　費	15,000	ボランティア保険
使用料及び賃借料	509,400	観光バス使用料･会場使用料
合　計	644,383	

6. 目標及び実績（見込）

指標	目標	実績（見込）
イベント参加者数	172人	170人

7. 成果

今まで交通手段がなく出かけたくても行けなかった高齢者が、自宅近くまで送迎することにより外出がしやすくなり、車いす・単身の人（ひきこもり等）が参加した。また、啓発及び講演会を行うことにより地域間の交流と健康及び安全面が高められた。

8. 今後の展開

住民ボランティアの裾野を広げ継続的な開催が望まれる。

そのためにも地域交流を行って、ボランティアが中心となり、互助する活動の組織化を目指していく。

平成 27 年度
地域活動費に係る地区市民センター館長提案 実績報告書

事業名	小山田地区里山づくり事業	地区名	小山田－②

1. 望まれる地域の姿

地区の自然を生かし、里山公園づくりの散策路整備とあわせて歩道の整備を行い、地域の憩いの場とする。

2. 地域の現状

当地区は、市内で２番目の面積であり、自治会の交流が少なく、地域活動への参加者も固定化しており、高齢化等で里山の維持管理が困難になっている。

3. 課 題

地域において、住民減少と高齢者世帯が増えており、地区の自然を守るのに地権者だけでは難しくなっており、地域で保全する体制づくりを構築する。

4. 実施内容

里山公園づくりの散策路整備をおこなっているが、その先に竹林が生い茂っており、この先を整備することにより里山の散策路と一体整備ができ、地区としての憩いの場になる。また、交通量の多い道路を通学していて、大きく回って小学校へ通学をしていたが、歩道整備をすることにより交通量が少ない道路を通り通学時間も短くなり、通学路の安全対策に寄与する。

5. 経費（見込みを含む）

金額単位：円

支出科目（節）	支出金額	内訳
需　用　費	325,066	仮設階段、手すり、混合油等
役　務　費	2,700	ボランティア保険
委　託　料	291,600	遊歩道設置作業委託
備品購入費	36,720	チェーンソー
合　計	656,086	

6. 目標及び実績（見込）

指標	目標	実績（見込）
整備参加者数（延べ）	100人	109人

7. 成果

散策路は、行き止まりで戻ってくることになっていたが、今回の整備をすることにより散策路が一周できるようになり、おやまだ桜から小学校の桜が見られるようになり、地区の中心部の散策が賑わう。

また、小学校の通学路の安全対策になる。

8. 今後の展開

住民減少と高齢者世帯の増加が続くと考えられる。

今後においても、散策路の維持管理を継続していくためにボランティア等の参加者を増やし、世代交代を行っていく。

散策路の利活用、維持管理作業等を通して、地域のつながりを深め、協力体制を構築していく。

平成27年度
地域活動にかかる地区市民センター館長提案 実績報告書

事業名	まちづくり構想をすすめるための人材発掘・育成、ネットワーク推進事業～認知症サポーター養成をとおして

地区名	川島地区

1. 望まれる地域の姿

住民同士が様々な活動を通して連携を深め、地域に誇りを持ちながら、安心して住み続けられる地域。

2. 地域の現状

・地域により差があるが、高齢化が進んでいる団地が増えてきている。
・豊かな自然環境が残っている。
・地域住民によるまちづくり活動は活発に行われているが、後継者不足に悩んでいる。

3. 課 題

現在、まちづくりに関わっている中心メンバーが高齢化しており、今後もまちづくりの活動を継続、発展させていくためには、特に、女性や子どもを含めて若い世代の住民を巻き込み、多様な人材が意思決定の場に参画できる体制づくりと多様な主体が協働で事業を行っていくための環境づくりが必要であると考え、昨年度人材の発掘、育成、ネットワーク推進のための事業に取り組んだ。

その成果として、まちづくり活動に関わるボランティアが26名登録いただき、既に様々な活動にご協力いただいている。その中には、中学校の生徒たちも含まれており、今後に希望が持てるところであるが、子育て世代（30～40代）は、関心はあっても時間に余裕が無いという人が多いというアンケート結果も出ており、こうした世代がみんなで少しずつまちづくりを担っていけるような仕組み作りが必要である。

また、もう一つの課題として、高齢化の問題があり、昨年度は認知症高齢者の行方不明者が複数人出たという状況があり、まちぐるみで認知症高齢者などを見守っていく体制をつくることも急務となっている。

4. 実施内容

●高齢者を見守るまちづくり

①地域住民みんなで高齢者を見守るまちづくりをすすめるために、川島小学校（5年生・9／30実施）、三滝中学校（2年生・11／28実施）、地域（川島地区福祉教室として7／12実施）で認知症サポーター養成講座を実施。

②「里山フェスタ」（11／29実施）と「凧揚げ大会」（1／23実施）を、新たな人材発掘の場、まちづくりボランティアの活動の場としてだけでなく、「里山保全について考える場」、「認知症予防のための高齢者と子どもが触れ合う場」として開催する。

●人材の発掘・育成とネットワーク化

①川島地区 HP 作成に携わることを条件に、「HP 作成講座」を現 HP 委員及び公募者を対象に実施。（8 月に 5 回開催。参加者 9 名（内 2 名は公募者））

②女性人材の発掘・育成のため、昨年度に引き続き「よってたかって・おしゃべり女子会」を開催。若い世代の参加を促すため、託児付きで子育てをテーマに実施した。なお、企画については、昨年度受講者から企画委員を募り行った。（9 月～2 月に月 1 回、全 6 回開催。受講者 50 名（内企画委員 9 名））

③「里山フェスタ」、「凧揚げ大会」開催にあたっては、川島地区まちづくり協議会に委託し、地域団体の他、NPO、四日市大学、小・中学校等多様な団体との協働ですすめることとした。また、イベントの中でも「まちづくりボランティア」の募集を行った。

○今年度は、新たに次のような取り組みを行った。

・認知症サポーター養成講座を受講した川島小 5 年生の児童が里山フェスタへの招待状を作成し、民生委員が高齢者宅に届ける。
・里山フェスタでは、高齢者と子どもが交流できるゲームなどを四日市大学生が企画、実施する。
・地区市民センターで活動するサークルにも地域活動に目を向けてもらうために、今回 2 つのサークルに協力をいただいた。（大正琴の演奏、おにぎりづくり）

5. 経費

金額単位：円

支出科目（節）	支出金額	内訳
報償費	308,000	HP 講座、女子会講師謝金
需用費	76,655	消耗品費　73,000 食糧費　2,000 賄材料費　2,000
委託料	635,208	「大門山ハイキング」開催　43,000 「里山フェスタ」「凧揚げ大会」開催　489,000 託児業務　103,208
使用料	35,540	「里山フェスタ」仮設トイレレンタル
合　計	1,055,403	

6. 目標及び実績（見込）

指標	目標	実績
まちづくりボランティア新規登録者数	10名	14名
まちづくり構想推進委員会への女性の参画率	30%	0%

7. 成果

様々な世代の住民がまちづくり活動に関心を向けることができた。具体的には下記のとおり。

・小・中学生を含め、様々な世代の方に認知症サポーターとなっていただいたことで、地域全体で高齢者を見守る雰囲気作りができた。

・子どもから高齢者までが楽しめるイベントを通してまちづくり活動への関心を高めることができた。

・女性の人材育成講座である「おしゃべり女子会」を託児付き講座としたことで、これまでセンターに来たことが無かった若い世代の女性達が多数参加いただき、まちづくり活動に関心を持ってもらうことができた。（20 代～70 代の女性達が参加）

8. 今後の展開

今年度の「おしゃべり女子会」の参加者を今後のまちづくり活動にどうつなげていくかは大きな課題である。OG 会をつくるなど長く繋がり続けられる工夫が必要である。また、これからのまちづくりの企画部門を担うまちづくり構想推進委員会への女性参画を進めたい。

2 年間の活動で、これまでまちづくり活動に関わってこなかった新たな人材を発掘することは少なからずできた。これらの人材をいかに生かしていくかが今後の大きな課題である。今後、まちづくりボランティアを含む地域の人財バンクの仕組みづくりと活用の方策を検討していきたい。

平成27年度
地域活動にかかる地区市民センター館長提案 実績報告

事業名	バスを利用した高齢者外出支援事業	地区名	神　前

1. 望まれる地域の姿

自動車を運転しなくなった高齢者であっても、公共交通の利用により、外出の機会が確保される地域になること。

2. 地域の現状

①高齢化（H27.4.1 時点高齢化率市全体 24.3%　神前地区　30.4%）の進展。
②神前地区まちづくり推進委員会の中の一部会であるプロジェクトが取組みを展開中。

3. 課　題

①バス利用の経験のない地域住民が増え、地域でのバスの認知度が低下している状況にあり、特に自動車の運転をしなくなった高齢者の外出手段に結びついていない。
②バスプロジェクト活動の停滞化。

4. 実施内容

①5～7月の間　連合自治会・まちづくり推進委員会・仙寿会への事業説明と協力依頼。
②5月・6月・8月・10 月開催のまちづくり定住対策部会で実施事業の検討。
③8月～11 月　近鉄、三重交通、イオン尾平店とのバス停美化作業の実施や内容を協議。
③11 月1日の神前地区文化祭において特設コーナーを設置し、お出かけマップによるPR活動実施。
④11 月　仙寿会によるバス停へのプランター花壇設置作業。
⑤12 月4日の定住対策部会にて、部会員と都市計画課職員との意見交換会開催。

⑥1月22日、地域における公共交通機関の在り方についての講演会を開催（34名参加）。
⑦3月、お出かけマップをクリアファイルにして全戸配布
⑧3月、神前小学校と三重西小（ただし神前地区のみ）の児童に PR グッズを配布。
⑨3月 13 日、小学校卒業生記念植樹事業にて、参加者に PR グッズを配布して啓発。

5. 経費

金額単位：円

支出科目（節）	支出金額	内訳
委託料	100，000	バス停美化（仙寿会委託）
需用費	695，606	PR グッズ、お出かけマップ作成経費
報償費	22，000	1月22日講演会講師報償費
合　計	817，606	

6. 目標及び実績

指標	目標	実績（見込）
地域住民のバス周知度	認知度のアップ	高齢者（仙寿会会員）への周知と神前地区同推協の利用
自主運行バスイベントの参加者	参加者数の増加	H26 年度 38 名⇒H27 年度 50 名

7. 成果

①まちづくり推進委員会でのバスプロジェクト活動支援体制が構築されつつある。
②神前地区老人クラブ仙寿会の社会貢献活動の再開と会員のバス周知が進んだ。

8. 反省点・今後の展開

①文化祭等での PR 活動の継続
②利用実態調査の実施と検証
③仙寿会のバス停美化活動の継続化

④バス乗り方教室の未開催

平成27年度
地域活動にかかる地区市民センター館長提案 実績報告書

事業名	自然を活かし　もっと元気なまちに ～ええとこにしよ！　さくら～	地区名	桜地区

1. 望まれる地域の姿

一生吹山の散策路整備や矢合川で季節感のある花や木の植樹や歩道の整備を行い、散策やジョギングなどが楽しめるようにし、まちの賑わいを図るとともに、地域のコミュニケーションを図る場とする。

2. 地域の現状

・桜地区は面積が大きく３連合自治会の交流が少ないため、人や団体組織間の交流も少ない。
・地域活動の参加者が固定化し減少してきている。また、情報発信も上手にできていない。

3. 課　題

・地区内のコミュニケーションを図るため人がふれあう場所づくりが必要である。⇒まちづくり構想でも必要としている
・地域づくりのための参加者の拡大が必要である。⇒まちづくりはみんなで行うもの

4. 実施内容

① 矢合川の花壇整備後に花の植栽を行う
② 一生吹山の歩道整備

5. 経費（見込みを含む）

金額単位：円

支出科目（節）	支出金額	内訳
消耗品費	913, 652	花壇用整備資材など
委託料	388, 800	花壇整備事前準備
備品購入費	160, 515	維持管理用器具
燃料費	20, 376	ガソリン
合　計	1, 483, 343	

6. 目標及び実績（見込）

指標	目標	実績（見込）
整備参加者(延べ)	200 人	230 人
一生吹山・矢合川での年間整備回数	7 回以上	7 回

7. 成果

散策路などを利用される方が地区内全域で増え散歩される方どうしの地区内のコミュニケーションの強化が図れた。
また、こういった事業への参加者が今後の維持管理などを協議し、今後のまちづくりの機運が高まった。

8. 反省点・今後の展開

一生吹山・矢合川の整備や維持の活動を今後も続けられるよう参加者を増やし継続していく。
散策路では挨拶運動も行い、利用者のコミュニケーションを深め地域全体の繋がりを強化していく。

矢合川散策路への花壇整備状況

着手前写真

工事中写真

完成

平成27年度
地域活動にかかる地区市民センター館長提案 実績報告書

事業名	もっと住み続けたくなるまちづくり	地区名	三重地区

1. 望まれる地域の姿

住民が自らの暮らす地域に愛着を感じており、世代を超えた交流が盛んで、安心して住み続けられるまちづくりに連帯して取り組んでいる。

2. 地域の現状

高齢化が進む一方、子どもたちをはじめとした若い世代と高齢者の交流の場が減少し、高齢者が住み続けるうえでの課題も顕在化してきている。

3. 課 題

住民の高齢化により地域行事の多くが取りやめとなっていく中、高齢者世代と若い世代が交流する場が少なくなり、住民の間の連帯感が弱まってきている。また、三重団地など居住者に高齢者の割合が高い地域を中心に、高齢者が住み続けるための環境整備が急務となってきている。

4. 実施内容

・郷土資料館活性化事業
三重北小学校6年生児童による郷土資料館の図面作成、登録有形文化財申請準備（申請資料作成他）、郷土資料館PR用冊子等作成、郷土資料館再生プロジェクトチームによる活性化策検討（先進地視察他）
・ふれあいまち歩き三重西事業
まち歩き（三重西小学校区一円）、車いす体験、ガリバーマップ作成、郷土芸能鑑賞、災害時の備え啓発
・三重西3世代交流フェスタを通じた啓発事業（地域包括ケアシステム構築の必要性を啓発）
周知用ポスター・チラシ、各戸配布用プログラムの作成、配布

5. 経費

金額単位：円

支出科目（節）	支出金額	内訳
報償費	90，000	アドバイザー謝礼ほか
需用費	473，715	資料館PR冊子等作成費ほか
委託料	108，000	登録有形文化財申請用図面作成費ほか
使用料及び賃借料	14，580	レンタカー借り上げ料ほか
合 計	686，295	

6. 目標及び実績

指標	目標	実績（見込）
郷土資料館来館者数	300人	240人
まち歩き参加者数	200人	130人

7. 成果

・郷土資料館の認知度を高める取り組みを進めることで地域への愛着を高め、住民同士が気軽に交流できる環境整備の必要性を感じてもらえた。
・幅広い世代の住民が集い、自らが暮らす地域のことを考えてもらう取り組みを行うことにより、住み続けたくなるまちづくりに向けた課題を参加者に共有してもらうことができた。

8. 今後の展開

今年度に実施した取り組みの成果が地域の中で生かされ、住民主導で次の段階に進んでいけるよう支援を行っていきたい。また、地区内には３つの小学校区があり、それぞれに地域特性が異なることから、各校区でバランスよく館長権限予算を用いた取り組みが行われるよう、各校区の連合自治会やその他の活動団体に働きかけていきたい。

平成 27 年度
地域活動費に係る地区市民センター館長提案 実績報告書

事業名	「あがたの課題をみんなで解決」作戦！	地区名	県

1. 望まれる地域の姿

良好な地域活動が楽しく持続し、魅力ある環境を維持する街

2. 地域の現状

・**人口が逓減**し、高齢化が進行している。
・**まちづくり**の先導的取り組みが展開されたが、活動の維持が課題となっている。

3. 課 題

まちづくりの**担い手**が、人口流出・高齢化により**減少**⇒　新たな参加のシステム、担い手の負担軽減

4. 実施内容

1. 地域の情報発信・交流の環境づくり

・総務省の地域情報化アドバーザー制度を活用し、高齢者の ICT 利用促進についての講演会開催
「楽しいシニアネットの作り方　老テクで私も街もみんな元気」　近藤則子（9/20）
「第３回スマートエイジングフォーラム ～高齢者の立場からマイナンバー制度を考える～」(9/30)
県地区の高齢者有志が仙台市の高齢者と共に skype で参加、内閣府大臣補佐官等と意見交換
・タブレットを 5 台購入し facebook を活用するための講習会を開催、図書室で貸出
・facebook page を立ち上げ「いいね」、コメント をきっかけに、地域活動と疎遠だった層の地域への関心、参加意欲の向上を図るとともに、地域の魅力や課題について、地域外からの関心も呼び込み、岡山県井原市の「県の里まちづくり協議会」と facebook を通じて交流。

2. 地域の課題の解決策を考える

・地域の課題を整理し、課題解決のためのデザインを講座開催や大学の研究会（四日市大学、慶応義塾大学）との協働事業、facebook による交流で結ばれた「縁」を活用しながら考えた。

(1)グリーンパーク岡山の活性化

アウトドア体験の場としての可能性探究
小学生のプチキャンプの開催(7/25~26)
アウトドア＆遊び＆防災イベント「あがたであそうぼうさい」開催 (11/28)

(2)竹谷川周辺の環境整備

四日市大学武本教授の研究会との水質調査(6/5, 8/21,11/24,2/19)
都市計画課によるまちづくり構想に基づく散策路整備計画の作成を支援

(3)オープンガーデンの普及のための 講座を開催

「オープンガーデン、初めの一歩」(10/17)
「花づくり、庭づくり、まちづくり」(2/20)
※ 賛同者が 8 名集まり、組織化をすすめる。

(4)あがた音頭の復活・あがた讃歌の創作

まちづくり委員会、地区社協が進める「あがた音頭の復活・あがた讃歌の創作」について
CD 化の方法や演奏者、スタジオの情報提供を行う。
※館長権限予算としては関連事業を展開
あがた音頭復活記念コンサート (11/14)
県地区歴史講座 (12/20,1/23,2,27)
あがた讃歌に登場する歴史人物の講座を開催し、地域への郷土愛の醸成に努めた。
文化祭での披露に向けた振付講座開催

(5)慶應義塾大学との域学連携事業（3/8～10）

地域住民と慶応義塾大学環境情報学部・総合政策学部の教授・学生が「移住・定住」をテーマに交流
・ホームスティや農作業、郷土料理（肉めし）、・里山活動を体験
・学生の関心から「仕事」「農」「食」の 3 グループに分かれて地域住民と意見交換
・メリノール女子高校 2 年生と懇談し、進路の希望や U ターンの可能性について聞き取り
・ドローンによる県地区の空撮

【学生からの提案発表内容】
① 子育て環境からの U ターン
働く女性と子育てを支援したい住民とのマッチングによる U ターンの喚起
② 農業希望者の J ターン、I ターン
都会から農業をやりたい人を農家が弟子として受け入れる。
③ 移住促進のためのサイト開設
「まず、来てもらう」ために県地区の魅力を伝えるサイトの構築
移住した場合のシュミレーション機能をもったもの

(6)あがたの里まちづくり委員会(岡山県井原市)との交流

「あがた」繋がりでfacebook を通じた交流を始めている。
2～3 月にリアルの交流の調整をしていたが、先方との日程があわず 28 年 4 月以降となる。

5. 経費

金額単位：円

支出科目（節）	支出金額	内訳
報償費	752,000	オープンガーデン講座、防災イベント「あがたであそぼうさい」、タブレット講座、「移住・定住」に関する域学連携事業、あがた歴史講演会、あがた音頭・讃歌演奏会、あがた音頭・讃歌踊り講習
需用費	133,564	岡山プチキャンプ、防災イベント「あがたであそぼうさい」、オープンガーデン講座
保険料	10,000	岡山プチキャンプ
委託料	56,000	岡山プチキャンプ
備品購入費	107,406	タブレット（5 台）
合　計	1,058,970	

6. 目標及び実績

指標	目標	実績（見込）
県地区の facebook page へのいいね	950	94 ※リーチは最大 417 人
地域課題へのデザイン	6 テーマ	6 テーマ

7. 成果

様々な切り口からの講座・イベントの開催や、情報発信を行うことにより、地域の人材の発掘につながった。
また、地域内外の識者を地域へ結び付けることができ、今後も facebook を通じて継続的な交流が期待できる。

8. 今後の展開

県地区の facebook ページへのファンを増やしながら、さらに、高齢化する地域活動の役員を取り込み、そこでの意見交換や交流を礎として、地域課題の解決のためのデザインを考えていく。

県地区の地域活動費　「あがたの課題をみんなで解決」作戦！

テーマ	グリーンパーク岡山の活性化	竹谷川周辺の環境改善	オープンガーデン	あがた音頭・讃歌	域学連携事業	情報発信・交流
対応 	**岡山＋こども** 7/25 プチ・キャンプ **岡山＋アウトドア＋防災** 11/28 あがたであそうぼうさい 	**海蔵川水系の水質調査** 年 4 回（地 区内 2 カ所） 	10/17 講座 **「オープンガーデン初めの一歩」** 2/20 講座 **「花づくり、庭づくり、まちづくり」** 	10/1　**録音** 11/1　**文化祭** 11/14　**演奏会** 1/16　**郷土が誇る芸能大会** 12/20 1/23 2/27 **ふるさとの歴史講演会**	3/8～10 **移住・定住をテーマとした学生との交流会を開催** 	Pepper による情報発信 購入困難（ネット販売のみ） **他地区との交流** **県の里まちづくり協議会**
縁 域学連携 域域連携	**クラウド・ファンディング** 四日市大学金融経済教育推進研究会 **竹（竹粉・竹炭）の有効利用** 四日市大学エネルギー環境教育研究会 **防災＋あそび** あんどうりす、　Bousaring 早川大 慶應義塾大学　一ノ瀬研究会	**水質調査** 四日市大学環境情報学部 高橋元教授、武本教授	**講演** 岐阜県立国際園芸アカデミー 相田教授 三田グリーネット 達家彰子 **情報交換・交流（予定）** 熊野市オープンガーデンの会	**録音・ミキシング** 四日市大学環境情報学部 関根准教授 	**調査・提案** 慶應義塾大学　一ノ瀬研究会 【学生からの提案発表内容】 ①子育て環境からの U ターン ②農業希望者の J ターン、I ターン ③移住促進のためのサイト開設	**facebook で交流** 県の里まちづくり協議会（岡山県井原市）
ICT	**地域 ICT の推進** 9/5　近藤則子 氏（地域情報化アドバイザー）講演（総務省予算） 「楽しいシニアネットの作り方　老テクで私も街もみんな元気」 9/30　Skype を利用した電子会議に参加 「第 3 回スマートエイジングフォーラム ～高齢者の立場からマイナンバー制度を考える～」 県地区の高齢者有志が仙台市の高齢者と共に skype で参加、内閣府大臣補佐官等と意見交換 11~12 月　　タブレット講座開催　3 回×2 セット タブレット（andoroid）5 台を購入　講座や図書室での貸出に利用 3/10　　学生によるタブレット・スマホ講座 			**facebook** 県地区まちづくり委員会　いいね　95　リーチ　400~100 グリーンパーク岡山を愛する会　いいね　41　リーチ　30~50 あがたの花（オープンガーデン準備）　いいね　21　リーチ　不明 あがたよいとこ（域学連携情報提供）　いいね　30　リーチ　15~5 まちづくり　グリーンパーク　あがたの花　あがたよいとこ	

平成 27 年度

地域活動費に係る地区市民センター館長提案 実績報告書

事業名	郷土愛を育み、世代を超えてふれあい、絆を深めるまちづくり事業	地区名	八郷地区

1. 望まれる地域の姿

先人から受け継いだ豊かな八郷の自然・歴史・伝統文化等を守り育てるとともに、これらの地域資源に誇りを持ち、子どもから高齢者まで、世代を越えてふれあい、絆を大切にするあたたかく住みやすい地域となる。

2. 地域の現状

・高齢化が進む一方、親と同居しない世帯が多く、世代間や地域間のつながりは以前と比較して薄れている。
・高齢者のみの世帯が多く、空き家や空き田畑が多くなってきている。
・歴史探検隊の発足や花づくりの推進等、自然・歴史等に関心が高まってきている。

3. 課　題

少子高齢化が進む中、世代間や地域間での人のつながりが希薄化しており、自然・歴史・文化等地域の資源が埋もれ、地域の活力が失われつつある。よって、地域の誇りを持って、地域の人々がふれあい、絆を強くする取り組みが必要。

4. 実施内容

○ 昨年度事業の継続
(食)文化:八郷汁の地域ブランド化、歴史:歴史書の発行・出前講座、自然:散策・サイクリングマップの看板設置
○ 八郷汁・八郷米の農作業体験学習及び収穫祭の実施、八郷汁の地域ブランド化
○ 歴史書を活用した出前講座及び歴史書(第2弾)の発行
○ 散策・サイクリングマップの看板設置、情報収集・発信

5. 経費(見込みを含む)

金額単位:円

支出科目(節)	支出金額	内　訳	
需　用　費	541,048	農作業体験(種子・肥料等)経費 歴史書印刷経費	115,045 円 426,003 円
委　託　料	581,240	農作業体験等委託費 マップ案内看板設置委託費	200,000 円 381,240 円
合　計	1,122,288		

6. 目標及び実績(見込)

指　標	目　標	実績(見込)
収穫祭・出前講座等延べ参加者数	2,500 人	1,400 人
出前講座	4回	4回

7. 成果	8. 今後の展開
○農作業体験では、アンケート調査を行ない、２４家族中８割強が「楽しかった」との回答であった。特に、稲かりや野菜収穫は、９割近くが「楽しかった」と回答し、育てた農作物を収穫する楽しさや地域団体・ＪＡ等と協力して取組んだことで、日ごろ経験できない農作業体験への感謝の意見もあり、地域の絆が育まれ、コミュニティの活性化が図られた。 また、次回も友達にぜひ声かけし参加したいとの意見もあり、多くの住民と地域団体等が参加することにより、今後のまちづくりの推進に大きな期待が持てた。 課題としては、八郷汁の地域ブランド化に向け周知不足であった。	○農作業体験では、来年度は、小学校のほか公・私立の幼・保育園や育成会に申込書の配布・ポスターの掲示を依頼して事業周知と参加者を前年の倍に増やす。それに伴い、老人会を通じ高齢者に生き甲斐が生まれるようスタッフとして参加してもらい、更に世代間や地域間でのコミュニティを図り、絆を強くする取組みを行なう。 八郷汁の地域ブランド化に向け、地区広報・ホームページへの掲載や家庭用のレシピ等を作成すると伴に、５月に開催予定のロゲイニング大会や１１月開催の八郷フェスタのイベント等で地区内外にも情報発信を行なう。
○歴史書を活用して小学生の高学年を対象に、出前講座の開催を行なった。また、地区住民への関心度を向上させるため、組回覧を行ない地区の歴史を知る機会等をつくったことにより、数多くの問合せがあり、次世代に継承していく取組みのほか、人材の発掘や育成に期待できる。	○２冊の歴史書や散策マップを活用して幼・保育園から大人までを対象に出前講座を開催し、次世代に継承していく取組みを行なう。
○当初、案内看板設置を平津駅・暁学園前駅・伊坂サイクリングパークの3ケ所設置予定であったが、三岐鉄道㈱の計らいにより、駅構内・外に設置させていただけることとなり、計6ケ所に設置することができた。	○散策・サイクリングコースの要所に、簡易屋外看板や路面標示を整備するため、設置する場所の選定やそれに伴う土地所有者の調査を行ない、計画的に取組んで行く。

平成27年度
地域活動にかかる地区市民センター館長提案実績報告書

事業名	安全･安心 地域で支え合う体制構築事業	地区名	下野

1. 望まれる地域の姿

緊急時や災害時に自助または共助により安全・安心して暮らせる地域。また、支援を必要としている人（一人暮らし高齢者、高齢者夫婦世帯、障がい者など）や地域の人同士を支えあう地域。

2. 地域の現状

- 一人暮らし高齢者が多い。
- 高齢者のみの世帯が多い。
- 暮らしのお手伝いなど地域支え合い、進行中。
- 地域で、減災・防災体制構築が進行中。

3. 課　題

安全・安心して暮らせる下野地区を目指して、より一層の自助、共助が必要とされている。また、団地部を中心に、一人暮らし高齢者、高齢者夫婦世帯も多く、緊急時や災害時に支援を必要とする人も多い中、自助を基本としながらも、地域で支え合う体制を構築する必要性がある。

4. 実施内容

事業計画：地域住民を対象とした救命救急等に関する研修会等を行い緊急時における心構え等を学ぶ機会を確保する。緊急医療情報キットを配布するとともに家具固定や備蓄状況などを問うアンケートを実施、キット活用のＰＲを行うともに、アンケート結果を分析し現状の把握、課題の再認識を行い、地域の共有情報として地区だより等で地域へ発信、「気づき」につなげ、今後の安全、安心のまちづくりにつなげていく。実施内容：救急救命講座　4回　キット作成　アンケート実施・啓発

5. 経費

金額単位:円

支出科目(節)	支出金額	内訳
需用費印刷製本費	1,152,000	お知らせ、救急医療情報カード、キット説明書、ステッカー等印刷
需用費消耗品費	52,464	用紙、袋等
合　計	1,204,464	

6. 目標及び実績

指標	目標	実績(見込)
キット等配布	2,400	2,548 （2 月末）
回収アンケート	1,000	1,885

7. 成果

救急医療情報キット事業を推奨することにより、自助による緊急時の安全性の向上や共助が促進することが期待される。また、緊急時や災害時への備え状況をアンケートしたことにより、次年度以降の自助・共助による地域防災・減災など地域の支え合いの体制づくりを進めていく上での貴重なデータとなった。

8. 今後の展開

救急医療情報キットが活用されるよう、今後も継続してＰＲしていく。また、アンケートなど自治会の協力が今後も得られるならば、引き続き実態把握に努め、地域の防災、減災など安全・安心のまちづくりに役立てていくほか、町の防災訓練での活用を促すなど、地域の支え合いの体制づくりに活用していく。

平成 27 年度
地域活動費に係る地区市民センター館長提案 実績報告書

事業名	自然・歴史を生かしたまちづくり	地区名	大矢知

1. 望まれる地域の姿

地区の自然、歴史・文化等の資源や環境を守り生かし、この素晴らしい環境を子どもたちの世代に引き継ぐことのできる絆のある地域。

2. 地域の現状

当地区は、歴史的遺産を始め、多くの自然、文化的、歴史的資産や暮らしの知恵が今もなお多く引き継がれている。

3. 課 題

急激な都市化による人口増加や開発行為により、様々な問題が生じている。新しい住民や外国人が増え、コミュニティのあり方が変化している。また、高齢化が進み、一人暮らしの高齢者も増えている。その結果、地域コミュニティが弱体化し、多様な課題に対応できなくなっている。

4. 実施内容

大矢知地区まちづくり構想（平成２３年３月策定）に位置付けられた以下のプロジェクトに基づき事業を実施した。

「里山保全プロジェクト」

緑の環境を守り環境教育を実践するため、大矢知、垂坂の里山に散策路を整備し、子どもたちとともに植樹や巣箱の設置、椎茸の菌打ち体験を行った。

「歴史・文化の継承プロジェクト」

地域の大切な歴史・文化遺産を地域住民が知り学べるよう、陣屋跡など４か所に案内板を設置した。

「朝明川自然学習公園化プロジェクト」

水辺を散策し憩える場をつくるため、河川に繁茂した木竹の伐採を行った。

「身近な交流の場づくりプロジェクト」

地域の環境を改善し、地域のつながりを強めるため、ＥＭを活用した講演会を開催した。

5. 経費（見込みを含む）

金額単位：円

支出科目（節）	支出金額	内訳	
需用費 消耗品費	453,984	椎茸原木・菌	205,280
		桜、モミジ苗木	178,200
		巣箱材料	30,240
		ガソリン携行缶	5,960
		混合タンク	2,360
		ソーチェン	11,988
		草刈チップ	7,520
		刈払機用保護カバー	3,456
		結束バンド	448
		EM 資材	8,532
委託料 その他委託料	649,080	里山啓発看板	162,000
		史跡案内板	467,640
		史跡案内パネル	19,440
備品購入費 その他備品	184,140	チェンソー2 台	87,804
		刈払機 4 台	96,336
合 計	1,287,204		

6. 目標及び実績（見込）

指標	目標	実績（見込）
まちづくりへの参加人数	1，000人	800人
ボランティア数	80人	80人

7. 成果

活動への参加によって、より地域を知りコミュニティ活動への参加意識が高まったとの声も聞かれ、絆のある地域の形成につながっている。

8. 今後の展開

参加者が固定化している活動もあり、今後、周知方法を工夫し新たな参加者の発掘に努める必要がある。

平成 27 年度
地域活動費に係る地区市民センター館長提案 実績報告書

事業名	ささえ愛のまち　河原田　～ 伝えよう伝統を・楽しもう 自然に・ ふれ合おう　ささえ愛のまちで!!	地区名	河原田地区

1. 望まれる地域の姿

歴史・文化や伝統に培われた、豊かな河原田地区で地域住民が世代を超えてまちづくりに参画し、交流を深め、ささえ愛のまちを築く。

2. 地域の現状

地区内 6 町。それぞれの歴史的な町の成り立ちも違い、現状では人口減少の町もある一方で、ミニ開発により若い世代の流入があり、新住民が増加している町もある。工場地帯・住宅地・里山があるなど町の様子は小さな地区ながら、はっきりした様相である。高齢化は徐々に進行しつつある。

伊勢街道が通っているがあまり知られていない。

3. 課　題

26 年度から始まった都市計画地区別構想委員会の中においても、伝統文化の保存や里山保全に理解を深めることに意見が多く提案されている。因みに河原田地区は伊勢街道の始まりであることから、式年遷宮などをきっかけに地域住民の間でも地元を知ることが重要視され始めており、広く地域を知る機会が切望されていた。

また、26 年度に立ち上がった「ささえ愛のまち　河原田の会」は地区全体の団体からなる組織で、2年目となり、27 年度は、高齢者や幼児・児童などをささえていこうとする気風を地域全体に、さらにしっかりと根付かせていく必要があり、今後の地域内の活動、地域包括ケアシステムにつながる基本的な下地づくりが必要となっている。

4. 実施内容

1．　伝えていこう「河原田の歴史と文化」
　伊勢街道フェスタ～（地区の宝物といえるものの紹介）
　・小学生による事業ポスター作成
　・イベント「伊勢街道フェスタ」開催
　　北･南河原田町の天王祭の山車・獅子舞出演（子ども育成会や有志会など大人の参加での盛り上がり）、河原田名物の和菓子「切付」復刻、古い生活雑貨、農機具、写真等の展示、農芸高校ブラスバンドの演奏
　　伊勢街道のウォークラリー、河原田の特産品紹介
　・スタッフバッジの作成
　・バス借上げ・・・巡回バス運行

2．　楽しもう　竹林の里・みかん山イベントの開催
　地区内の里山を紹介し、
　・みかん山でのみかん狩り、
　・竹林公園での一同に会しての工作
　（農芸高校生徒たちの指導により竹を使ったおもちゃづくり（竹ぽっくり・竹のけん玉・貼り絵細工）及び純河原田産のお米などを使用した味ごはんを味わった。

3．　50 年前に発行された「郷土史」河原田版を復刻　（2，５００部）

4．　歴史学習講座開催（座学３回、視察１回）

5．　郷土の歴史マップの発行　（2，５００部）

5. 経費（見込みを含む）

1．　伝えていこう　河原田の歴史と文化「伊勢街道フェスタ」事業

支出科目（節）	支出金額	内訳
委託料	450，000	出演団体謝礼、イベントのぼり作成・ポスター製作謝礼、河原田銘菓「切付」復刻材料費等
使用料及び賃借料	59，400	バス借り上げ料（1日地区内循環）
合　計	509，400	

2.「楽しもう　竹林の里・みかん山」イベント事業

支出科目（節）	支出金額	内訳
委託料	170，000	農芸高校竹細工資材費、柑橘農家への謝礼 味ごはん材料等経費等
合　計	170，000	

3．50 年前に発行された「郷土史」河原田版を復刻

支出科目（節）	支出金額	内訳
需用費	477，360	B5サイズを A4に拡大　2500部　全戸配布
合　計	477，360	

4．　歴史学習講座

支出科目（節）	支出金額	内訳
報償費	32，000	学習会座学3回、視察1回
使用料及び賃借料	38，000	10人乗りワゴン借り上げ料
合　計	70，000	

5.郷土の歴史マップ作成

支出科目（節）	支出金額	内訳
需用費	172，800	2500部　A3　　A4 両面
合　計	172，800	

6. 目標及び実績（見込）

指標	目標	結果	内訳
イベント参加者	500 名	５９２名	「伊勢街道フェスタ」　５２５名 「楽しもう　竹林の里・みかん山　６７名
スタッフ参加者	１００名	２４２名	「伊勢街道フェスタ」　１８９名 「楽しもう　竹林の里・みかん山　５３名

7. 成果

これまでの地区内イベントは団体ごとの主催であり、団体をこえてスタッフを組織するような大きな事業がなく、今回初めてであったが、成功裡におわったことで、地元住民の大きな自信となった。

また、伊勢街道やみかん山・竹林公園など地元を紹介する取組として地域住民に大変喜ばれ、郷土愛の育成につながった。世代を超えての参加が多く、次回を望む声が多い。現在進めている地区別構想事業の先取りのような形でのイベント開催により、地区別構想のイメージづくりができた。

ささえ合いを進める事業では、「認知症サポーター養成講座」については県立農芸高校の学生を対象に 1 講座と、地域住民対象の「ささえ愛のまち　河原田の会」による「傾聴講座」2 講座が開催された。

8. 今後の展開

委託事業では、組織内の伝達や意思疎通がうまくいかなかった団体があった。今後は、団体内での伝わり方の確認や会議への代理出席の徹底を図ることなども必要である。

歴史を通じてのまちづくり（高齢者や子どもの居場所づくりなど）につなげていく。高齢者はもちろん、子どもやその保護者など、広く世代を超えた取組ができるようなメニューが重要である。ひとづくり・まちづくりでの様々な展開が期待できる。

平成 27 年度
地域活動費に係る地区市民センター館長提案 実績報告書

事業名	史跡・名勝・自然を活かしたまちづくり事業	地区名	水沢

1. 望まれる地域の姿

市民が心安らぐ「癒しの地」として水沢を訪れ、ファンを生み、安心して定住できる地域。

2. 地域の現状

豊かな自然とトップレベルの茶産業地、すぐれた伝統芸能と豊かなコミュニティーを持ちながらも人口減少（特に若年層の流出）が進んでいる。

3. 課 題

1． 地域の文化、伝統、コミュニティーの維持
2． 来訪者をファン（理解者）とし定住者へ結びつける
3． 地域情報（魅力）発信への取り組み

4. 実施内容

水沢の「見える化」を推進

保存会との学習　　教職員との史跡実査　　歴史本の紹介・活動状況の報告
史跡・標柱の整備活動　　史跡・標柱の追加整備　　地域案内看板の整備
発信媒体の試作　　地区紹介 DVD の試作、歴史本の電子化　各種行事での資料配布

5. 経費（見込みを含む）

金額単位：円

支出科目（節）	支出金額	内訳	
委託料	1，358，528	標柱制作委託	331,560 円
		案内看板制作委託	490,968 円
		地区紹介DVD制作委託	486,000 円
消耗品費	71，472	設置用材料等	
役務費	10，000	連絡、発送費	
報償費	6，000	地元講師	
合 計	1，446，000		

6. 目標及び実績（見込）

指標	目標	実績（見込）
標柱・案内看板制作、設置	6	5
地区紹介DVD制作	1	1
その他活動（講習会、保全活動）	3	5

7. 成果

・地区内へ向けての「見える化」。
・地区を訪れた方々への「見える化」。
・遠方への「見える化」

地域の魅力を再認識、継続的に発信できる活動ができた。

ロゲイニング、サイクリング、もみじ祭り、星の広場でのイベント等との相乗効果も期待でき、水沢の観光案内の一助につながった。

8. 今後の展開

次年度では、「水沢の魅力発信（春・水沢の新緑、お茶）、（夏・宮妻峡・ヒュッテ、少年自然の家などのレジャー・観光資源）というテーマでＤＶＤを試作、地域の魅力情報発信に取り組む。

電子データを用意・発信することにより、インターネット、各サイト、情報機関、個人情報者等が活用し、自然に頒布されていくことを目指し、プチ観光、定住者の増加を期待したい。

津田氏陣屋跡

水沢町で暮らす

平成27年度
地域活動にかかる地区市民センター館長提案 実績報告書

事業名	先人の知恵に学ぶまちづくり推進事業	地区名	保々

1. 望まれる地域の姿

先人の知恵や文化的伝統が理解され、住民相互の連帯感に基づく活動が行われる地域

2. 地域の現状

少子高齢化が進行する中で、世代間の関係も希薄となり、これまで伝えられてきた文化が急速に失われている。

3. 課 題

社会環境や生活様式の変化により、この地域で長らく伝えられてきた「もの」や「こと」が記録されないまま消失し、歴史や文化を次世代に継承することが困難となっている。

4. 実施内容

(1) 調査･研究事業　資料の所在調査や聞き取り、旧街道の調査
(2) 収集･保存事業　実物資料は所有者に保存を依頼、聞き取りの収録
(3) 教育･普及事業　講座、啓発事業の開催(しめ縄 10/15、餅つき 12/1、講演会 3/19)
(4) 展示･公開事業　史跡、旧街道に関する展示

5. 経費(見込みを含む)

金額単位:円

支出科目(節)	支出金額	内 訳
需 用 費	199,798 円	写真機材、展示用具、事務用品
委 託 料	448,200 円	教育･普及事業開催、旧街道調査、案内板設置
備品購入費	250,724 円	写真機材、展示用具
合 計	898,722 円	

6. 目標及び実績(見込)

指 標	目 標	実 績(見込)
資料調査件数	100 件	110 件
教育･普及事業参加者	100 人	155 人

7. 成果

地域で長く使用されてきたものや聞き伝えの価値が認識され、保存、活用に向けた機運が高まった。また、地域団体に働き掛けて事業を実施したことにより、各団体の刺激にもなり、活動の活性化につながった。

8. 今後の展開

来年度以降も、随時、資料調査を行い、保存や展示のできる場所の確保に向けて調整を行っていく。農作業用具から対象を広げて実施していきたい。啓発事業については、地域団体の活動の中に取り入れて実施する予定である。

平成 27 年度
地域活動費に係る地区市民センター館長提案 実績報告書

事業名	海蔵川河川敷魅力づくり事業	地区名	海蔵

1. 望まれる地域の姿

市の観光資源になっている海蔵川堤防の桜並木を中心とした河川敷を、地区住民を含む市民誰もが自然を感じることができる憩の空間として利用できる。

2. 地域の現状

桜まつりには人が集まるが、それ以外ではせっかくの緑地帯が有効に活用されていない。また桜の木を含む河川敷の環境保全活動の担い手が固定化している。

3. 課 題

・昨年度に樹木医の診断を受けたところ、老木であり延命措置を講じる必要があることが判明したが、住民には専門的な技術がない。
・河川敷の利用促進のため美しい環境を守りたいが、保全に携わっている人が固定化しており、関心の薄い住民も多く、担い手の確保や技術の伝承が難しい。

4. 実施内容

①桜並木の保存・活用・魅力づくり
樹木医を講師に迎え、住民を対象に桜の木の剪定講習を、座学と実技も両面で実施した。実技ではチェーンソーの使用や高所作業車を使った大枝の剪定方法の見学などを体験してもらった。
②地域が行う桜まつり(4 月)こどもまつり(5 月)しょうぶまつり(6 月)の間で、地域が行う環境美化活動（仮設トイレの設置及び清掃、河川敷の除草）の支援を行った。
③桜並木の由来やこれまでの保存、環境美化活動を説明したリーフレットを作成し、全戸配布や小中学校での配布、小学校での地域学習での説明、桜まつり本部や阿倉川駅、川原町駅での配架、地区ホームページ掲示など情報発信を行った。

5. 経費(見込みを含む)

金額単位:円

支出科目(節)	支出金額	内訳
報償費	60,000	桜の木剪定講習講師報酬
需用費	190,497	剪定講習消耗品、燃料、リーフレット印刷
役務費	196,030	トイレ汲み取り料、剪定講習傷害保険料
委託料	496,800	海蔵川堤防桜の木剪定業務
使用料及び賃借料	85,820	トイレレンタル料
備品購入費	44,928	チェーンソー2 台
合 計	1,074,075	

6. 目標及び実績(見込)

指標	目標	実績
剪定講習参加者数	30 人	35 人
リーフレット年間活用枚数(全戸、学校配布以外)	500 枚	560 枚

7. 成果

剪定講習では専門家の指導を受け、公募も含め受講者から桜の木の剪定方法が良く分かったと好評であり、その後行われた地域での剪定活動に活かしてしていた。
リーフレット配布後、少人数ではあるが保全の同意や協力申し入れの連絡があった。

8. 今後の展開

桜の木の保全を入り口とし、海蔵川河川敷全体の環境を守ることに関心を持つ住民を増やし、市内でも有数の憩の場所になるように住民一人ひとりがまちづくり構想に挙げる取り組みを推進していく。

平成27年度
地域活動にかかる地区市民センター館長提案 実績報告書

事業名	橋北「おとなの小学校」PART２	地区名	橋北

1. 望まれる地域の姿

高齢者の居場所やいきがいづくりの場を提供することによって、地域住民の連携を育み、絆の強い地域となる。

2. 地域の現状

四日市市内で最も高齢化が進んだ地域
高齢者世帯や一人暮らしの高齢者が年々増加している。

3. 課　題

定年を迎えた高齢者が地域に居場所がない。現役時代に地域に関わっていないため、地区内に知り合いがいない。　→　居場所や生きがいづくりの場を提供

4. 実施内容

別紙のとおり

5. 経費（見込みを含む）

金額単位：円

支出科目（節）	支出金額	内訳
報償費	２１４，０００	講師報償費
需用費	１２０，０００	消耗品費他
委託料	２０，０００	事業委託費
使用料及び賃借料	１６５，２４０	バス、会場使用料
備品購入費	１３１，４３６	プロジェクター、スクリーン
合　計	６５０，６７６	

6. 目標及び実績（見込）

指標	目標	実績（見込）
小学校入学者数	35人	38 人
イベント参加者数	200人	243人

7. 成果

今まで地域活動に参加しなかった人や人づきあいのなかった人も参加しており、居場所や生きがいづくりの場としての効果をあげている。

昨年度の卒業生が実行委員会を結成して、企画、運営に積極的に関わり、学習するだけでなく、地域活動も実践するようになった。

8. 反省点・今後の展開

昨年度に引き続いての事業であり、講座、教室は順調に開催している。

今後は「おとなの小学校」の卒業生が主体となって、地域活動を実践していくことが望まれる。

平成27年度　橋北「おとなの小学校」 事業計画書

平成27年5月1日現在

回	月　日	≪講　　座≫ 午　前　（9:30～11:30）　　（講　師）	≪教　　室≫ 午　後　（13:30～15:30）　　（講　師）
①	H27 7月5日(日)	＜公開＞記念講座「落語会」 ・受講者−入学式・オリエンテーション　　（笑福亭　仁智氏）	
②	7月9日（木）	**遠足（四日市市立博物館・四日市公害と環境未来館・四日市あすなろう鉄道）**	
③	7月23日（木）	講座「橋北の防災を考えよう！」　　（四日市市危機管理室）	教室「福祉活動につなげよう」～手話～　Part1　　（ろうあ福祉会）
④	8月27日（木）	講座「介護保険制度を勉強しよう！」　　（四日市市介護・高齢福祉課）	教室「福祉活動につなげよう」～手話～　Part2　　（ろうあ福祉会）
⑤	9月10日（木）	講座「認知症を予防するためには」　　（四日市市健康づくり課）	教室「福祉活動につなげよう」～折り紙～　　（赤とんぼ折り紙クラブ）
⑥	9月24日（木）	講座「健康で長生きするためには」　　（四日市羽津医療センター薬剤師）	教室「心のこもった年賀状でコミュニケーション力アップ」～硬筆～　　（伊藤芳香先生）
⑦	10月8日（木）	講座「橋北での在宅介護」　　（在宅介護支援センター楽々館）	教室「橋北の歴史を読む」～古文書～　　（博物館　学芸員）
⑧	10月22日（木）	講座「男女共同参画でまちづくり」　　（四日市市男女共同参画課）	教室「心のこもった年賀状でコミュニケーション力アップ」～水墨画～　Part1　　（花村　誠氏）
⑨	11月12日（木）	**社会見学（中部国際空港セントレア・新美南吉記念館）**	
⑩	11月26日（木）	講座「暮らしと税金について考えよう」　　（東海税理士会）	教室「心のこもった年賀状でコミュニケーション力アップ」～水墨画～　Part2　　（花村　誠氏）
⑪	12月10日（木）	**クリスマス会**「パーティー料理を作ろう！」　　（四日市羽津医療センター （場所―橋北地区市民センター調理室・会議室　　管理栄養士　三輪氏）	
⑫	H28 1月14日（木）	講座「暮らしのお手伝いを住民の手で！」　　（四日市市社会福祉協議会 NPO法人下野・活き域ネット）	教室「福祉活動につなげよう」～お話し会～　　（四日市お話の会赤とんぼ）
⑬	1月28日（木）	教室「福祉活動につなげよう」～ちぎり絵～　　（前川　美奈子先生）	2月の学生企画・福祉活動の打合せ・準備
⑭	2月11日（祝）	**学生企画**「おとなの小学校　文化祭・おもてなし」 （場所―橋北地区市民センター調理室・会議室）	
⑮	2月25日（木）	**福祉活動**「保育園・幼稚園で子どもたちとふれあおう！」	
⑯	3月6日（日）	＜公開＞卒業コンサート　　（橋北中学校音楽部 ・受講者−卒業式・交流会　　フラダンス＜ハイビスカス・滝川＞ 合唱＜橋北綾合唱団＞）	

平成 27 年度
地域活動費に係る地区市民センター館長提案 実績報告書

事業名	高齢者見守り・支え合い事業	地区名	中部地区

1. 望まれる地域の姿

高齢者の見守り、一人暮らしの高齢者に対する声掛け等を通じて、共に支え合い、誰もが安心して安全に、快適に暮らすことができる地域

2. 地域の現状

・住宅、工場、商店街等が混在している。
・高齢化の進展が著しい。

3. 課 題

平成２７年４月１日現在において、市内２８地区の中で、７５歳以上の高齢化率が最も高い港地区、２番目に高い同和地区、３番目に高い中央地区を抱える中部地区において、平素の高齢者の見守り、一人暮らしの高齢者に対する声掛け等、共に支え合い、誰もが安心して安全に、快適に暮らすことができる環境を創造していくことが求められる。

4. 実施内容

① まず、高齢者の方が生きがいを持って長生きをしていただくことができるよう、『生きがいづくり』に関する講演会の開催
② 高齢者の方が万が一、疾病に罹ったり、事故等に遭われた場合は、地域で適切な治療、医療を受診していただく必要があることから、「地域医療『行き詰った時の対処法：住み慣れた地域で最期まで』」に関する講演会の開催
③ 高齢者の方がいつまでも健康で過ごしていただけるよう、そもそも要援護者とならないよう、『健康』・『健康寿命』に関する講演会をシリーズで開催

No.	内　　容	開催日時・会場	講　　師
①	高齢者の生きがいづくり 『深海は見えないから面白い！』	平成２７年１１月 ２７日（金）１０時～ 本町プラザ１階ホール	沼津港深海水族館 館長 石垣幸二　先生
②	地域医療について 『行き詰った時の対処法： 住み慣れた地域で最期まで』	平成２８年１月 １４日（木）１０時～ 本町プラザ１階ホール	いくわ診療所 所長 加藤文人　先生
③の１	健康寿命を延ばそう（第１回）	平成２８年１月 ２８日（木）１０時～ 本町プラザ１階ホール	いくわ診療所 理学療法士 徳力康治　先生他
③の２	健康寿命を延ばそう（第２回）	平成２８年２月 ４日（木）１０時～ 本町プラザ１階ホール	いくわ診療所 理学療法士 徳力康治　先生他
③の３	健康寿命を延ばそう（第３回）	平成２８年２月 １８日（木）１０時～ 本町プラザ１階ホール	いくわ診療所 理学療法士 徳力康治　先生他
④	高齢者と地域住民の健康パフォーマンス	平成２８年２月 １４日（日）１３時半～ 中部地区市民センター	ずーまだんけ さん

5. 経費

金額単位:円

支出科目(節)	支出金額	内訳
需用費	140,400	消耗品費・印刷製本費
使用料及び賃借料	42,220	会場使用料・駐車場使用料
報償費	140,000	講師報償金
委託料	940,000	委託料（５件）
合　計	1,262,620	

6. 目標及び実績

指標	目標	実績
①の講演会の参加者数	６０ 名	５６ 名
②の講演会の参加者数	６０ 名	８７ 名
③の１の講演会の参加者数	６０ 名	６４ 名
③の２の講演会の参加者数	６０ 名	７１ 名
③の３の講演会の参加者数	６０ 名	７５ 名
④の講演会の参加者数	６０ 名	１１９ 名

7. 成果

いずれの講演会についても、多くの方の参加を得た。

高齢者の方の見守り・支え合いについて、地域住民の方に一定の問題提起・考えるきっかけづくりはできたものと思料する。

なお、医療や健康寿命に関するテーマについては、地域住民の皆様の関心が高いことが理解できた。

8. 今後の展開

中部地区においては、５つの地区において年度当初から１２月中旬頃まで、ふれあい行事、敬老行事、防災訓練等の大きなイベント等が目白押しであるため、当事業を早期に着手することが中々困難であるが、今後は、各地区とも調整の上、早期に着手することができるよう努めたい。

当地区において、高齢化は引き続き確実に進展していくものと思われる。

地域住民の皆様にとって切実で差し迫った現実的な課題として、より一層、高齢者の見守り・支え合いを認識していただき、取組をより実効性あるものとしていくとともに、よりよい事業として展開していくため、地域住民の皆様のご意見も伺いながら、今後のあり方を検討していきたい。

平成 27 年度
地域活動費に係る地区市民センター館長提案 実績報告書

事業名	みなでつくる　うるおいのまち・楠 ～「楠地区まちづくり構想」から～	地区名	楠地区

1. 望まれる地域の姿

まちづくり構想の 3 つのうるおい（心、水とみどり、街のうるおい）のあるまち

2. 地域の現状

・水資源とハマヒルガオ群生地等自然豊かな地域
・地域のまつり等を通じ地域の絆が強いまち

3. 課　題

・風水害を受け易い地域であり、住民の防災意識の高揚と自助・共助を始めとする防災力の強化
・高齢者の健康づくりと高齢者の日常を支える制度の構築
・まちの魅力の再発見と交流人口、定住人口の増加

4. 実施内容

平成２２年度に策定した「楠地区まちづくり構想」に根差した取り組みを行った。
①防災講演会（H27.10.21）②高齢者福祉講演会・歌う会・ふれあいサロン（H27.10.29）③歴史・文化講演会、まつり実演（H27.8.1）④自然観察会・ボート乗船体験・サバイバル調理実習（H27.8.2）⑤まち歩き（H27.9.25 ）⑥その他まちづくり構想概要版、まち歩きマップの作成

5. 経費（見込みを含む）

金額単位：円

支出科目（節）	支出金額	内訳
報償費	85,000	講師報償金
需用費	264,316	コピー用紙、インク等事務用品等
役務費	14,040	ピアノ調律
委託料	872,316	まち歩き事業委託、構想概要版作成委託等
使用料及び賃借料	3,466	軽トラ借り上げ
合　計	1,239,138	

6. 目標及び実績

指　標（参加者数）	目　標	実　績
防災講演会	100 人	122 人
高齢者福祉講演会等	50～100 人	91 人
歴史・文化講演会等	50 人	61 人
自然観察会等	50 人	71 人
まち歩き	30 人	49 人

7. 成果

・まちづくり構想を地域住民に周知し、目指すべきまちの姿について理解を深めた。
・地域団体との協働によって事業を行うことで団体の活性化を図ることができた。
・事業を通して地域の課題（人材の発掘・育成、高齢者を支える仕組みの必要性）が明確になった。

8. 今後の展開

・まちづくりを担ってくれる人材を継続的に確保するため、次世代人材育成事業を実施していく。
・高齢化に伴う高齢者の健康維持、認知症の人を地域で支える制度の構築につながる取り組みを実施していく。